

○計画期間:平成 28 年4月～令和3年3月(5年)

I 中心市街地全体に係る評価

1 令和元年度終了時点(令和2年3月 31 日時点)の中心市街地の概況

明石市中心市街地活性化基本計画（平成 28 年 3 月 15 日内閣総理大臣認定）は、「「海・食・時」のまちに更なる魅力を創造し賑わいあふれるまちへ」を基本コンセプトとし、前認定基本計画から引き続き「便利で暮らしやすいまち」「一歩足を伸ばして楽しめるまち」を重点目標に設定し、行政と民間が協働しながら中心市街地の活性化に取り組んでいます。

令和元年度は計画期間の 4 年目にあたり、認定基本計画の核事業であった「明石駅前南地区第一種市街地再開発事業」が完了し、「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」全面オープンから 3 年が経過しました。令和元年度も「パピオスあかし」の全面オープン当初の賑わいを継続させるべく、まちづくり会社と商店街が連携し、毎年開催している「明石まちなかバル」だけでなく、更なる回遊性向上を図るため、これまで開催していた「春旬祭」に替わる新たなイベント「スマホで探そう！明石なるほどクイズラリー！」等、多くのイベントを実施しました。また、令和元年は市制施行100周年及び明石城築城400周年の節目の年であったため、官民一体となり「B-1 グランプリ in 明石」や「あかし伝統夢まつり」を開催する等、例年以上にソフト施策に取り組みました。ハード面では、令和 2 年 3 月に明石駅南側に「あかし案内所」を設置し、まちの案内機能だけでなく、みんなのトイレや子育てサポート室を整備し、誰もが利用しやすい施設とするとともに、明石らしい情報発信、おもてなしの提供等を行っています。

他にも「パピオスあかし」、「アスピア明石」及び「ピオレ明石」が連携してイベントを実施し、「魚の棚商店街」をはじめとする各商店街の積極的な情報発信や大衆劇場「ほんまち三白館」の集客効果により、来街者の増加や回遊性の向上を図るソフト施策を行う等、官民一体となって中心市街地全域の活性化に取り組んでいます。

以上の取組により、令和元年度の最新値が 3 つの目標指標の目標値をすべて上回るだけでなく、中心市街地内すべての地点の地価公示及び地価調査価格が上昇し、中心市街地内の人口も増加し続けていることから、中心市街地の賑わいや魅力が向上し続けています。

今後、中心市街地の南の明石港周辺において、中心市街地の新たな南の拠点形成を形成すべく、市役所新庁舎の整備や明石港東外港地区の再開発が計画されているだけでなく、令和 3 年の秋に「第 41 回全国豊かな海づくり大会兵庫大会」が予定されており、令和 2 年 11 月に「1 年前プレイベント」が予定されています。

本市のシンボルである「海のまち、魚のまち」を活用したまちづくりは、まだまだ高い可能性があることから、引き続き、官民が一体となり中心市街地の活性化に取り組むことにより、中心市街地の賑わいを市内全域に波及させ、市内全域の発展に繋げていきます。

**【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】**

(基準日：毎年度1月1日)

中心市街地区域	平成27年度 (計画前年度)	平成28年度 (1年目)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)
人口	7,663人	7,697人	8,084人	8,220人	8,345人
人口増減数	207人	35人	387人	136人	125人
自然増減数	▲19人	24人	▲2人	▲10人	42人
社会増減数	226人	11人	389人	146人	83人
転入者数	506人	391人	598人	470人	414人

**2 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見**

令和2年2月18日に中心市街地活性化協議会を開催し、令和元年度の最新値(速報値)の報告等を行い、委員から次のとおり意見がありました。

- ・ 認定基本計画の核事業である市街地再開発事業が完了し、明石市の地の利である神戸や大阪へのアクセスが至便であるという利点をうまく使うことができている、来街者が増加したことは喜ばしい。商業活性化分科会における若い人達の頑張りや「パピオスあかし」のオープンが大きく寄与していると考えられる。
- ・ 最新値が数年に渡り高い水準で推移していることは、誇るべき結果である。市街地再開発事業の結果、来街者が増加し、増加した来街者の受入先として新規出店者数も増加した。国道2号を跨ぐ人の流れを生み、面としての広がりを生んだと評価できる。一方で国道2号南側の商店街区域全体の歩行者・自転車通行量は底上げされているが、調査地点によっては数値がそれほど上昇していないところがある。今後、商店街の中で老舗として頑張っている店舗が更に頑張らないと中心市街地の活性化は長続きしないかもしれない。そのため、計画期間中に限らず、人の流れの調査・分析を重ねていくことが重要である。分析結果を踏まえ、中心市街地活性化施策の成果をより広い範囲に定着させていく努力が必要である。
- ・ 次のステップとして、市役所新庁舎の整備と明石港東外港地区の再開発による中心市街地の南の拠点の形成に取り組むことは、大きなプロジェクトであるため、県と連携し、取り組んでほしい。
- ・ 計画期間が残り1年間と仕上げの段階に入ったが、近い将来、市役所新庁舎の整備や明石港東外港地区の再開発の進捗により、さらに中心市街地の様子に変化していくことが予想される。中心市街地の活性化を南方面にも展開させていけるかという点で真価が問われる。各委員の立場で中心市街地の発展に今後も理解と協力をしていきたい。

## II 目標ごとのフォローアップ結果

### 1 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
便利で暮らしやすいまち	都市福祉施設利用者数 (人/年)	452,001 (H26)	900,000 (R2)	1,378,754 (R1)	A	①	①
一歩足を伸ばして楽しめるまち	歩行者・自転車通行量 (人/日)	16,737 (H27)	20,000 (R2)	20,188 (R1)	A	①	①
	新規出店者数 (店/年)	12 (H27)	12 (H28~R2) (平均)	16 (R1) 20 (H28~R1)	A	①	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2 目標達成見通しの理由

「都市福祉施設利用者数」については、「あかし市民図書館」「あかしこども広場」「あかし総合窓口」の利用者数を合計している。「あかし市民図書館」については、オープン当初から多くの人々が来館し、オープン3年目の令和元年度においてもオープン初年度とほぼ同水準の来館者数となり、目標値を大きく上回っている。「あかしこども広場」については、中高生世代交流施設「AKASHIユーススペース」等の利用者数が増加し、目標値を大きく上回っている。「あかし総合窓口」については、利用者数が増加し続けており、目標値とほぼ同水準となっている。報告書作成時点において、新型コロナウイルス感染症の影響により「あかし市民図書館」が臨時休館し、「あかしこども広場」の大部分の利用が停止されてしているものの、目標値を大幅に上回る利用者数であることから、目標達成は可能であると見込まれる。

「歩行者・自転車通行量」については、令和元年10月に調査を行った。「パピオスあかし」や「ほんまち三白館」等の集客効果や各商店街の情報発信により、来街者の回遊性が向上したことから4年連続増加し、初めて目標値を上回った。新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の見通しは不透明であるが、引き続き「パピオスあかし」に訪れた人が国道2号南側の商店街区域まで足を伸ばしたくなるイベントを行い、商店街の魅力や情報を積極的に発信し、更なる回遊性の向上を図ることにより、目標達成は可能であると見込まれる。

「新規出店者数」については、平成30年10月に調査した。「パピオスあかし」オープンによる来街者の増加や国道2号南側の商店街区域の歩行者・自転車通行量の増加等による商業環境の向上により、各商店街で出店があり、目標値を大きく上回っている。新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の出店状況の見通しは不透明であるが、目標達成は可能であると見込まれる。

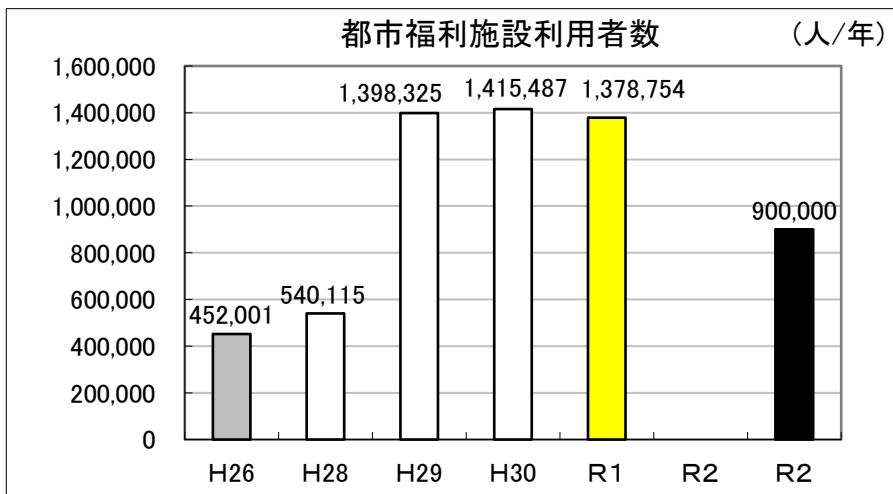
### 3 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

#### 4 目標指標ごとのフォローアップ結果

「都市福利施設利用者数」※目標設定の考え方 認定基本計画 P62～P67 参照

##### ●調査結果の推移



年	人/年
H26	452,001 (基準年値)
H28	540,115
H29	1,398,325
H30	1,415,487
R1	1,378,754
R2	
R2	900,000 (目標値)

※調査方法：都市福利施設の年間利用者数を調査

※調査日：平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

※調査主体：明石市

※調査対象：都市福利施設（あかし市民図書館・あかしこども広場・あかし総合窓口）の利用者

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ① あかし市民図書館整備事業（明石市）

事業実施期間	平成26年度～平成28年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」内に、「本のまち」という新たな明石の魅力を発信する拠点として市民図書館を整備し、市民等が憩う滞在型図書館として運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成29年1月にオープンした。旧図書館から収蔵数及び床面積が増加し、利便性が向上したため、幅広い世代の利用があり、来館者数300万人達成目前となっている。令和元年度の来館者数は905,659人（平成30年度905,174人 平成29年度943,835人）で、目標来館者数650,252人を大きく上回っており、中心市街地の賑わいの中心となっている。
事業の今後について	事業は完了したが、引き続き「本のまち明石関連事業」を実施し、「あかし市民図書館」の来館者の増加に向けた施策を推進していく。

② あかしこども広場整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」内に子どもを中心とした多様な交流の創出や、健全な居場所となりまちを元気にするための拠点及び次世代の育成と子育て支援を促進するためのこども健やかひろばを整備し、プレイルームや子育て関連イベント等の運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和元年度） [認定基本計画：平成30年度～令和 2 年度]
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 4 月に全面オープンした。オープンから 3 年が経過し、口コミやリピート利用者により、「こども健康センター」や親子交流スペース「ハレハレ」の利用者数が堅調に推移し、中高生世代交流施設「AKASHI ユーススペース」や「多目的ルーム」等の利用者数が増加し続けている。令和元年度の利用者数は 320, 288 人（平成 30 年度 358, 959 人 平成 29 年度 327, 094 人）で、目標利用者数 98, 304 人を大きく上回っている。 「こどもを核としたまちづくり」の拠点として、更なる利用者の増加が見込まれ、中心市街地の活性化に貢献している。 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 2 年 3 月 3 日から一部を除いて閉所しており、全体の利用者数が前年度と比べて減少している。
事業の今後について	「あかしこども広場」の整備が完了し、中高生の居場所作りや子育て関連イベント等を実施し、利用者の増加に向けた施策を推進していく。

③ あかし総合窓口整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」内に、市民の利用頻度が高い証明発行や保険、福祉等の行政窓口機能の整備・運営を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 1 月にオープンした。「明石駅前再開発ビル（パピオスあかし）」内に利用頻度の高い行政窓口機能を整備することで、市民の利便性が向上し、幅広い世代の市民が行政窓口に行く際の負担を軽減することができる。令和元年度の利用者数（取扱件数）152, 807 件（平成 30 年度 151, 354 件 平成 29 年度 130, 347 件）と増加し続けており、目標利用者数（取扱件数）153, 445 件とほぼ同水準となっている。
事業の今後について	事業は完了したが、引き続き「あかし総合窓口」の取扱業務の多さや利便性を積極的に周知し、利用者の増加を図っていく。

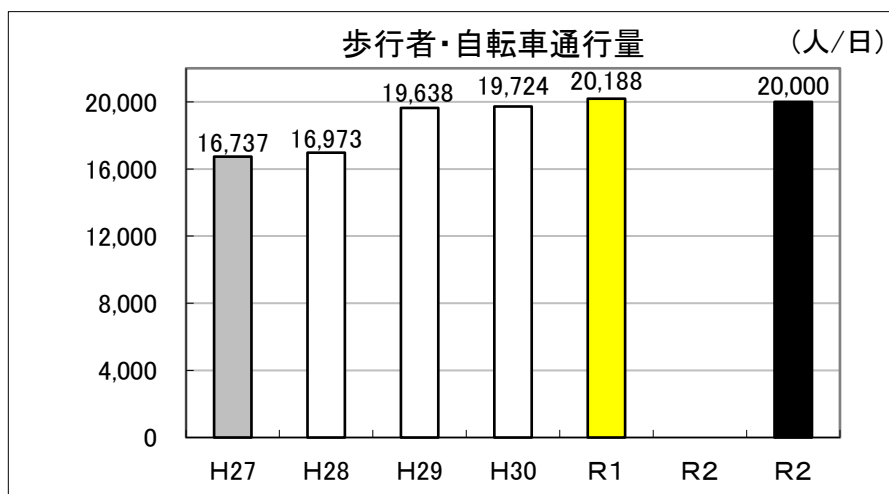
### ●目標達成の見通し及び今後の対策

都市福利施設の整備から3年が経過した。「あかし市民図書館」については、利用者数が移転前の約3.3倍、目標値の約1.4倍となっており、「あかし市民図書館」の利用者数だけで、都市福利施設利用者数全体の目標値を上回っている。「あかしこども広場」については、利用者数が目標値の約3.3倍となっている。「あかし総合窓口」については、利用者数が3年連続増加しており、利用者数が移転前の約2.4倍となっている。

引き続き、都市福利施設の運営内容の改善及び積極的な情報発信等を推進し、更なる都市福利施設利用者数の増加を図っていく。併せて、都市福利施設を活用したイベントや周辺の商店街等と連携したイベントを実施し、都市福利施設の利用者の増加を図ることにより、目標達成は可能であると見込まれる。

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方 認定基本計画 P69～P75 参照

●調査結果の推移



年	人/日
H27	16,737 (基準年値)
H28	16,973
H29	19,638
H30	19,724
R1	20,188
R2	
R2	20,000 (目標値)

※調査方法：毎年10月ごろの休日及び平日の10時から18時まで中心市街地に設定した6地点での歩行者・自転車通行量を調査

※調査日：令和元年10月28日(日曜日)及び令和元年10月29日(月曜日)

※調査主体：明石市

※調査対象：中心市街地6地点(国道2号南側商店街区域)における歩行者・自転車通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

① 明石駅前南地区第一種市街地再開発事業(明石駅前南地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成23年度～平成28年度【済】
事業概要	明石駅前において耐震性と床の有効活用に課題を残す建築物を共同化し、商業や行政サービス施設、高層住宅からなる中心市街地の拠点となる複合施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省)(平成23年度～平成28年度)
事業効果及び進捗状況	平成28年12月に「パピオスあかし」が一部オープンし、平成29年4月に全面オープンした。商業施設、公共施設、医療モール及び住宅棟が入居する複合ビルであることから、集客効果が高く、中心市街地の核施設として、明石駅から国道2号南側の商店街区域を結び、中心市街地の活性化及び回遊性の向上の役割を担っている。幅広い世代の人が利用しており、空き店舗はない。明石駅南側の通行量は、令和元年度30,503人(平成30年度33,115人平成29年度26,262人)と再開発ビル整備完了前の平成28年度15,354人から約15,000人増加しており、来街者が増加している。
事業の今後について	平成28年度事業完了

② 国道2号立体横断歩行者道路整備事業（明石市）

事業実施期間	平成20年度～平成28年度【済】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」から国道2号南側までの国道2号を横断する立体横断デッキを整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路））および一体の効果促進事業（国土交通省）（平成25年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	平成28年12月に老朽化した横断歩道橋を撤去し、幅員を1.5mから5mに拡大し、エレベーター及び屋根を設置した立体横断デッキを整備した。明石駅から天候に左右されることなく「パピオスあかし」の「あかし市民広場」を通過して「魚の棚商店街」等、国道2号南側の商店街区域まで行くことができるようになった。立体横断デッキの通行量は、令和元年度5,302人（平成30年度5,183人 平成29年度4,554人）と再開発事業開始前の平成25年度1,021人から約4,000人増加し、国道2号南側の通行量を増加させることができた。
事業の今後について	平成28年度事業完了

③ 駅前高層住宅整備事業（民間事業者）

事業実施期間	平成26年度～平成28年度【済】
事業概要	明石駅前再開発ビル内に都市型高層住宅を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	総戸数216戸のうち、販売対象戸数199戸が即日完売となり、平成29年3月から入居開始となった。本事業により、駅前高層住宅が区域内にある大明石町1丁目の人口は、令和元年度756世帯1,574人（平成30年度740世帯1,540人 平成29年度715世帯1,465人）と販売前の平成28年度536世帯1,097人から増加し続けており、転入した住民による新たな回遊性の創出と通行量の増加に貢献している。
事業の今後について	平成28年度事業完了



④ あかし市民広場整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【実施中】
事業概要	「明石駅前再開発ビル」内に市民が集い、賑わい、憩う空間で、情報発信の拠点となるイベント広場空間を整備し、市内の観光等の情報発信やイベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和 2 年度）
事業効果及び進捗状況	平成 28 年 12 月にオープンした。イベント利用率は、令和元年度平日 68% 休日 95% 平均 77%（平成 30 年度：平日 68% 休日 99% 平均 78% 平成 29 年度：平日 68%、休日 99%、平均 82%）あり、ほぼ毎日定期的にイベントが行われ、市内外から多くの人が集まり、集客効果が高い。また、イベント開催日以外も憩いの場として活用されており、「あかし市民広場」を通して、国道 2 号南側商店街区域を訪れることができる。1 日当たりの通行量は、令和元年度 22,365 人（平成 30 年度 21,654 人 平成 29 年度 19,370 人）と増加し続けており、多くの来街者が市民広場を通行しており、回遊性の向上の中心となっている。 新型コロナウイルス感染症の影響で令和 2 年 2 月 27 日から一部イベント利用を中止している。
事業の今後について	「あかし市民広場」の整備が完了しており、引き続きイベント等を実施し、利用者の増加に向けた施策を推進していく。

⑤ 明石まちなかバル事業（明石まちなかバル実行委員会）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	商店街が一体となり各店連携しながら、販売促進を兼ねた事業として、飲食店を中心としたバル事業を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 23 年から開催し、合計 17 回開催している。令和元年度は、6 月と 11 月に開催した。参加店舗数及びチケット販売額は当初から増加・維持されており、恒例イベントとして毎回多くの人を訪れている。中心市街地の主要な商店街である魚の棚商店街西口の通行量は、令和元年度 5,054 人（平成 30 年度 4,078 人 平成 29 年度 4,818 人）と平成 28 年度 3,742 人から約 1,300 人増加しており、中心市街地南側の商店街区域を訪れる人が増加している。
事業の今後について	今後もバル事業で集客することで商店街の PR を行い、バル当日だけでなく平時の来街を促し、来街目的の創出及び回遊性の向上を図る。

⑥ ほんまち三白館活用事業（本町商店街振興組合・各商店街）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	大衆演劇場に改修されたほんまち三白館において、大衆演劇の公演や近隣店舗との提携事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 27 年 12 月にオープンした。毎月劇団が入れ替わり、1 日 2 回ほぼ毎日公演しており、来館者数は、開館以来堅調に推移している。「国道 2 号立体横断歩行者道路」から「ほんまち三白館」に南下する道の途中である本町通り中央北側の通行量は、令和元年度 1,438 人（平成 30 年度 1,303 人 平成 29 年度 1,268 人）と平成 28 年度 900 人から約 500 人増加しており、中心市街地南側の商店街区域を訪れる人が増加している。
事業の今後について	中心市街地の南に位置し、市民や文化の交流拠点となっており、今後も集客効果を周辺地域に波及できる取組を推進し、回遊性の向上を図る。

⑦ 明石海峡クルーズ事業（榎淡路ジェノバライン）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	淡路ジェノバラインによる明石港～明石海峡大橋～岩屋港までの海と周辺資源を活かしたミニクルーズ事業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	「ミニクルーズ」だけでなく、「花火観覧クルーズ」「小豆島クルーズ」「直島クルーズ」などを実施した。明石港の乗船場である「明石乗り場」に南下する道の途中である「玉沢ビル前」の通行量は、令和元年度 2,601 人（平成 30 年度 2,546 人 平成 29 年度 2,457 人）と平成 28 年度 2,583 人から約 20 人増加しており、中心市街地の南側まで訪れる人が維持され、増加している。
事業の今後について	中心市街地の南に位置し、利用者数が増える取組を推進し、通行量及び回遊性の向上を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「パピオスあかし」オープンから 3 年が経過し、来街者の増加等に伴い、歩行者・自転車通行量も 4 年連続増加し、初めて目標値を上回った。

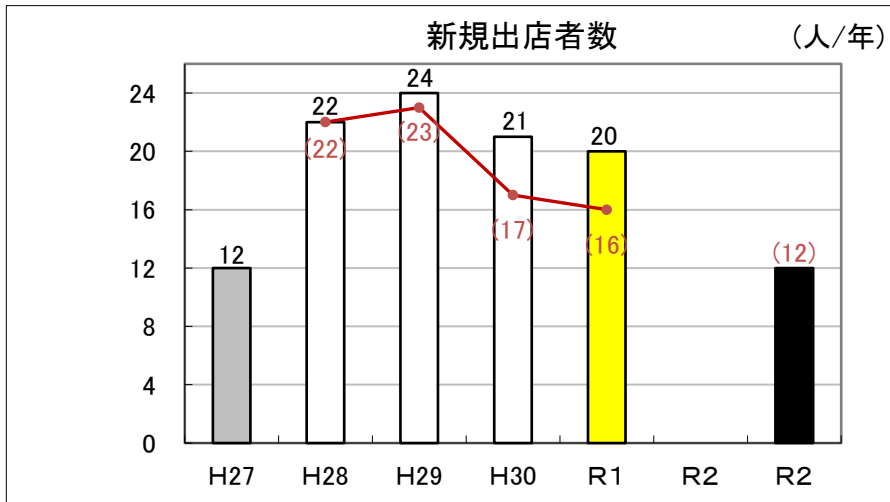
明石駅から「パピオスあかし」の「あかし市民広場」を通り抜け、「国道 2 号立体横断歩行者道路」を通り、国道 2 号南側の商店街区域まで天候に左右されることなく通行できるようになった。

歩行者・自転車通行量をさらに増加させるためには、増加した来街者を「パピオスあかし」内に留めることなく、国道 2 号南側商店街区域に誘導する必要がある。そのためには、商店街が積極的に情報発信を行い、「あかし市民広場」のイベントスペースの活用や「あかし市民図書館」等との連携を積極的に行い、「明石まちなかバル」「明石半夏生たこまつり」「スマホで探そう！明石なるほどクイズラリー！」等のイベントを定着させ、「ほんまち三白館」の集客力を活用し、国道 2 号南側の商店街区域へ足を運ぶ目的を創出する等、歩行者・自転車通行量の増加を図っており、

目標達成は可能と見込まれる。

「新規出店者数」※目標設定の考え方 認定基本計画 P77～P81 参照

●調査結果の推移



年	店/年 (平均)
H27	12 (基準年値)
H28	22 (22)
H29	24 (23)
H30	17 (21)
R1	16 (20)
R2	
R2	(12) (目標値)

※調査方法：毎年10月ごろに店舗を実地視察し、前年度からの店舗の変化状況を調査

※調査日：令和元年10月23日(水曜日)から10月25日(金曜日)まで

※調査主体：明石市

※調査対象：国道2号より南側の商店街区域の代表的な7つの通りに面した店舗

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①市道明石中央42号線ほか歩行環境整備（明石市）

事業実施期間	平成27年度～平成30年度【済】 (認定基本計画：平成27年度～令和2年度)
事業概要	本町地区を中心とした商店街及び明石港付近における道路の美装化及び排水機能の改善を行う。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（道路事業）（国土交通省）（平成29年度）
事業効果及び進捗状況	良好な歩行環境の確保と排水機能を改善した快適な歩道により、来街者の増加及び商店街の商業環境の向上を図り、新規出店数を増加させる。平成29年度から市道明石中央37号線（魚の棚商店街）の歩道の舗装工事を実施し、平成30年度中に完了した。また、平成30年度に市道明石中央42号線の歩道の舗装工事を実施し、平成30年度に完了した。令和元年度の魚の棚商店街の新規出店者数は9件あった。
事業の今後について	平成30年度事業完了

② 景観向上施策推進事業（各商店街・明石市）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	景観資源として重要な商店街や明石駅前周辺において、景観づくりの取組を進めるほか、都市景観形成地区指定を目指した取組の支援を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和元年度） [認定基本計画：平成30年度～令和 2 年度]
事業効果及び進捗状況	各商店街における景観づくりの取組を推進し支援を行い、魅力的な街並みを創造し、商業環境の向上を図る。平成 26 年度に「ほんまち商店街まちなみ景観ガイドライン」を策定し、平成 30 年度に「明淡通り景観ガイドライン」を策定し、運用している。 令和元年度のほんまち商店街と明淡商店街の新規出店者数は 2 件あった。
事業の今後について	各商店街の特長を生かし、商店街の魅力を向上させるため、景観ガイドラインの策定等景観向上施策を推進していく。

③ 春旬祭事業（春旬祭実行委員会）

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	明石に春を告げる魚であるイカナゴ漁の解禁に合わせ、「魚を楽しむまち」をテーマとして魚の棚商店街を中心に各商店街が連携し、明石らしいお祭りを行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和 2 年度）
事業効果及び進捗状況	平成 14 年から開催し、平成 31 年まで計 16 回開催していた。イカナゴの新仔漁の不漁が続く、イカナゴ漁の解禁日が不確定な状況が続いていることから、令和元年度は、1 日だけのイベントである「春旬祭」を休止し、各商店街の魅力の周知と回遊性の向上を図るため、令和 2 年 2 月 21 日から 3 月 15 日にかけて「スマホで探そう！明石なるほどクイズラリー！」を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で想定よりも応募者が少なかったが、ファミリー層の応募が多く、商店街の魅力を周知することができた。
事業の今後について	令和元年度のイカナゴの新仔漁が令和 2 年 2 月 29 日から 3 月 6 日までと過去最短であったことやクイズラリーのフォーマットができたこと等を鑑み、令和 2 年度の開催方法について、検討を進める。

④ 明淡線自転車駐車場整備事業（明石市）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	歩道拡幅に合わせた路上でのラック式駐輪施設の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	道路改良工事に併せ、歩道にラック式駐輪施設を整備した。自転車での来街者を増加させ、駐輪施設を拠点とし、商店街等の利用者の増加を図った。令和元年度の明淡商店街の新規出店者数は、1 件あった。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了

⑤ 明石港駐輪場改修事業（明石市）

事業実施期間	平成 28 年度【済】
事業概要	高速船乗り場に隣接する駐輪場の環境改善を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	明石港無料駐輪場増設工事を実施し、駐輪スペースを 290 台から 450 台に 160 台分増加させ、転落防止用フェンスの設置工事を実施した。 明石港に寄港する高速船の利用者だけでなく、明石港やその周辺の商店街等を回遊する来街者が利用できる駐輪場として改修することで、中心市街地の南側へ誘客し、回遊性を向上させ、商業環境の向上を図った。
事業の今後について	平成 28 年度事業完了

⑥ 中心市街地の空間有効活用事業（中心市街地活性化協議会商業活性化分科会）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	事業者や住民などが主体になって、中心市街地内にある未利用地や公共空間において、イベントなどの有効活用を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	中心市街地内にある空き地や空き家、商店街通りの道路などの公共空間など、場所や時間を考慮して有効活用し、中心市街地への来街目的の創出と魅力向上を図る。既に商店街独自で商店街の空きスペースでイベントや出店を募る等、中心市街地の空間を有効活用している。
事業の今後について	民間の事業内容を参考に、事業化を図る。

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

「パピオスあかし」オープン以降の来街者の増加や道路のリニューアル等の商業環境の向上により、商店街を訪れる人や出店者側の出店意欲が向上し、新規出店者数が増加したため、目標値を大きく上回っている。

今後も商店街の情報を積極的に発信し、商店街の価値を高め、来街者を増やし、新規出店の持続を図ることにより、目標達成は可能と見込まれる。